

鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔第 2 号被保険者調査〕

令和 2 年 4 月
鈴鹿亀山地区広域連合

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の方法.....	1
3 配布・回収数.....	1
4 報告書の見方(注意事項).....	1
II 調査結果	2
1 ご本人のことについて.....	2
2 介護に関する考え方について.....	6
3 健康について.....	12
4 認知症について.....	19
5 地域のたすけあいについて.....	23

I 調査の概要

1 調査の目的

鈴鹿亀山地区広域連合では、令和 3 年度からの「第 8 期介護保険事業計画」の策定作業を進めています。この調査は、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

- ①調査対象地域 鈴鹿亀山地区全域
- ②調査対象者 鈴鹿亀山地区にお住まいの 40～64 歳の介護保険の被保険者のうち 55 歳以上で介護保険の要支援・要介護認定を受けていない方
- ③調査期間 令和 2 年 1 月(調査基準日は令和 2 年 1 月 1 日)
- ④調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

3 配布・回収数

有効配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
998	540	54.1%	4	536	53.7%

4 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中の N 数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(表中)の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出し、小数点以下第 1 位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも 100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が 100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑤ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。
- ⑥ 地区別クロス集計については、日常生活圏域のブロックである『鈴鹿西部』、『鈴鹿北部』、『鈴鹿中部』、『鈴鹿南部』、『亀山』の 5 区分での集計を行います。

II 調査結果

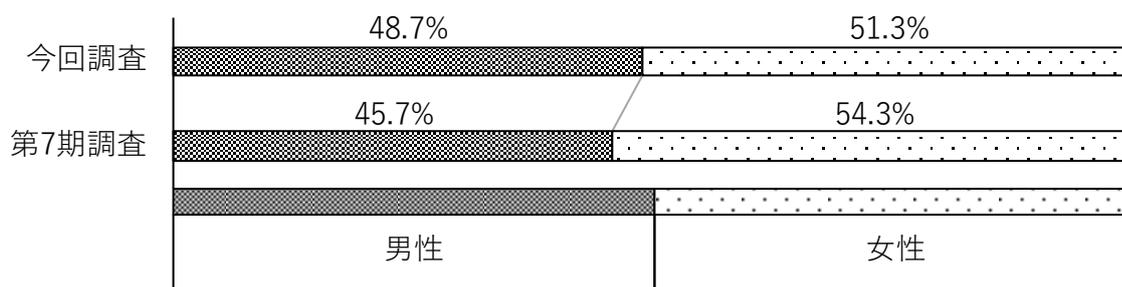
1 ご本人のことについて

問1 あなた(封筒のあて名の方。以下同じです。)の性別はどちらですか。(1つを選択)

【N=532、438(第7期調査)】

性別については、「男性」が48.7%、「女性」が51.3%と、「女性」が「男性」を2.6ポイント上回っています。

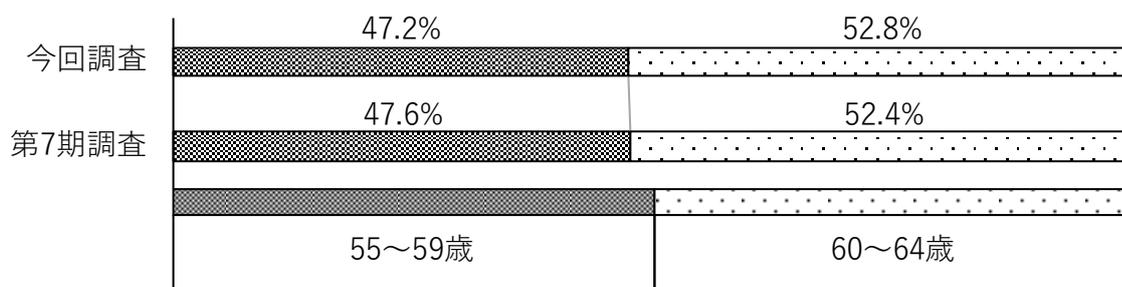
第7期調査と比較すると、「男性」が3.0ポイント上昇しています。



問2 令和2年1月1日現在のあなたの年齢をお答えください。(1つを選択)

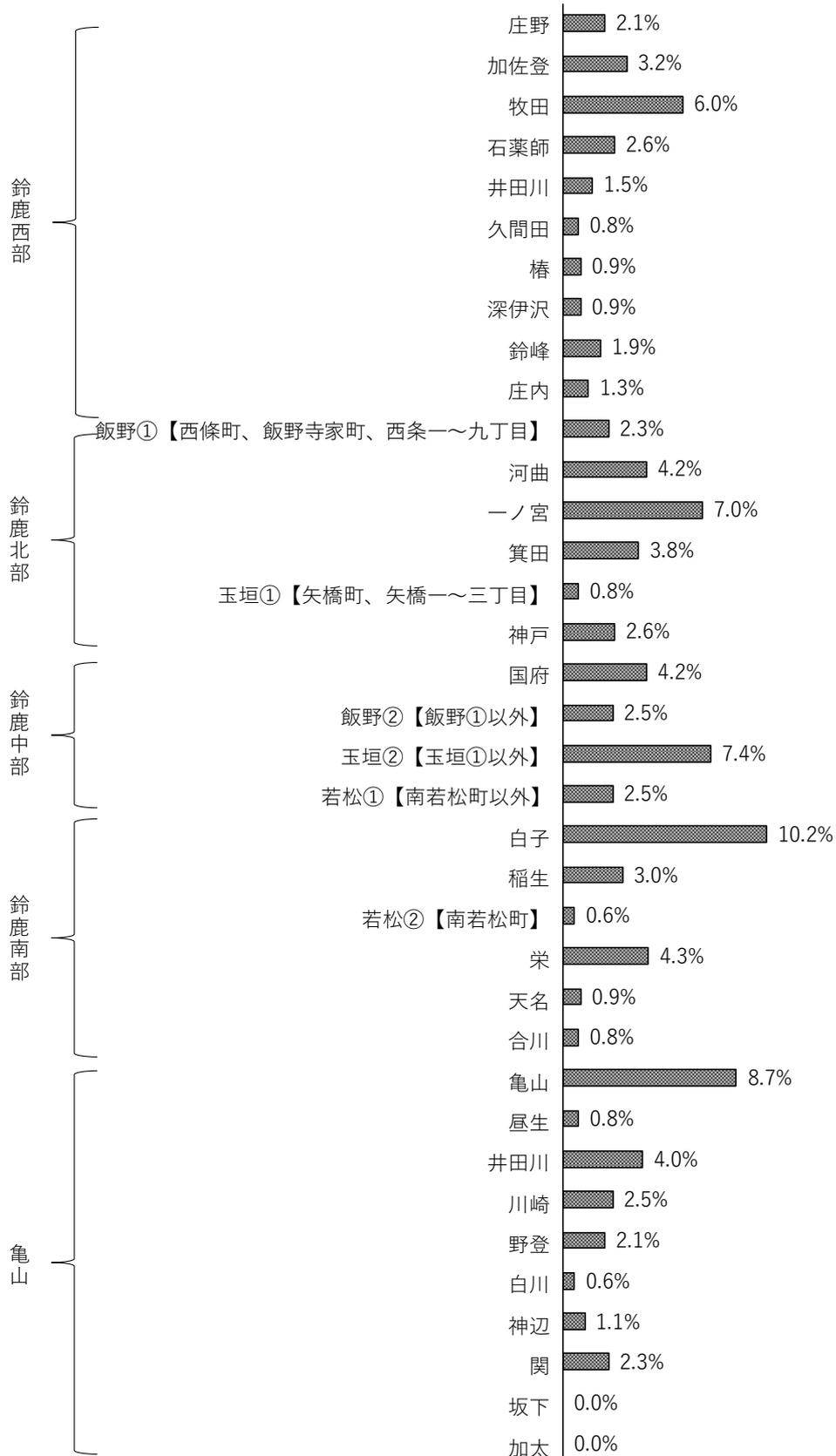
【N=528、441(第7期調査)】

年齢については、「55～59歳」が47.2%、「60～64歳」が52.8%と、「60～64歳」が「55～59歳」を5.6ポイント上回っています。



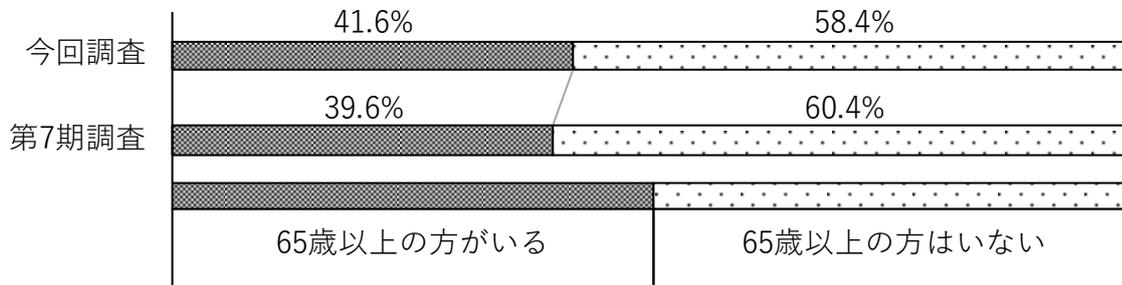
問3 あなたのお住まいの地区は、次のどちらですか。わからない場合は町名を書いてください。
(1つを選択) 【N=530】

居住地区については、「白子」が10.2%と最も高く、次いで「亀山」(8.7%)、「玉垣②(玉垣①以外)」(7.4%)と続いています。



問4 あなたの世帯には65歳以上の方がお住まいですか。(1つを選択) 【N=531、439(第7期調査)】

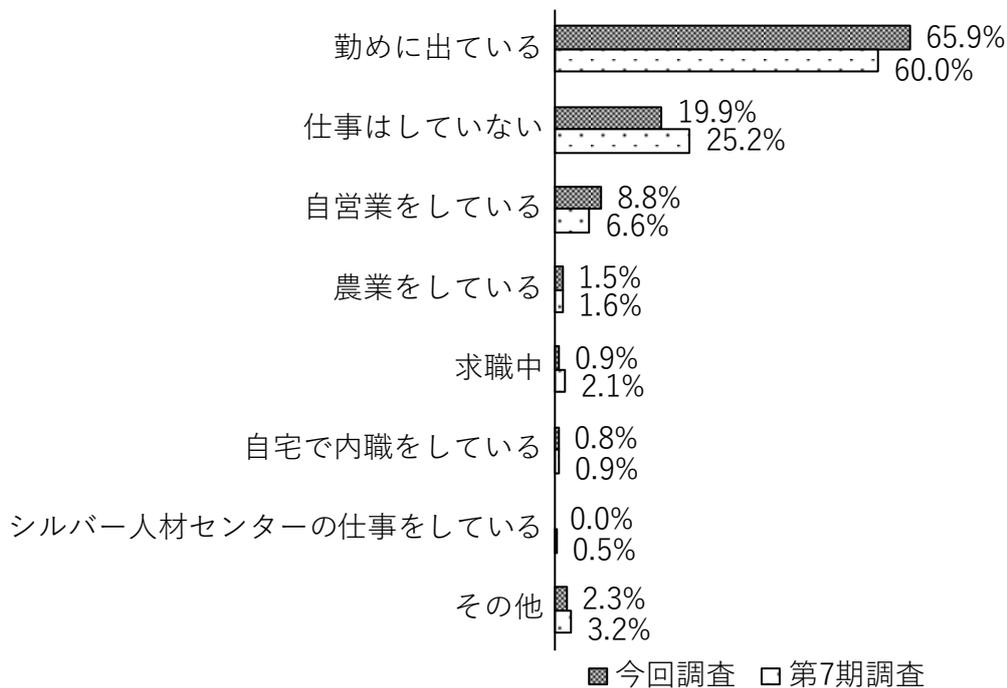
世帯の状況については、「65歳以上の方はいない」は58.4%、「65歳以上の方がいる」は41.6%となっています。



問5 あなたは、現在、どんな仕事をされていますか。(1つを選択) 【N=533、437(第7期調査)】

仕事については、「勤めに出ている」が65.9%と最も高く、次いで「仕事はしていない」(19.9%)、「自営業をしている」(8.8%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「仕事はしていない」が5.3ポイント低下する一方、「勤めに出ている」は5.9ポイント上昇しています。

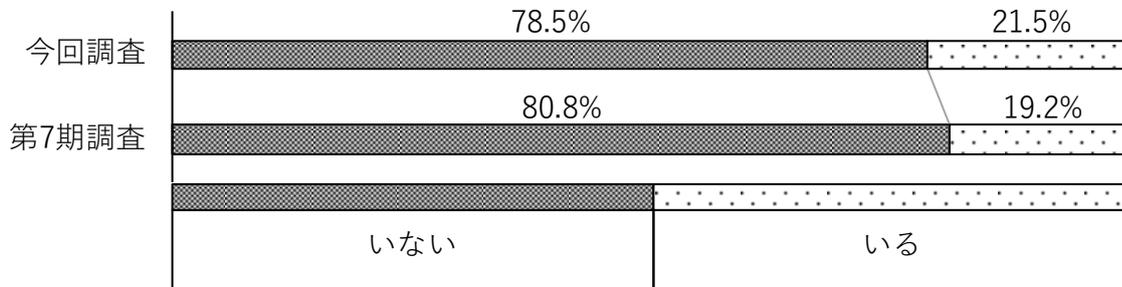


問6 現在、あなたのご家族の中に介護が必要な方はいらっしゃいますか。(1つを選択)

【N=530、437(第7期調査)】

家族の中に介護が必要な方がいるかどうかについては、「いない」が78.5%を占め、「いる」は21.5%となっています。

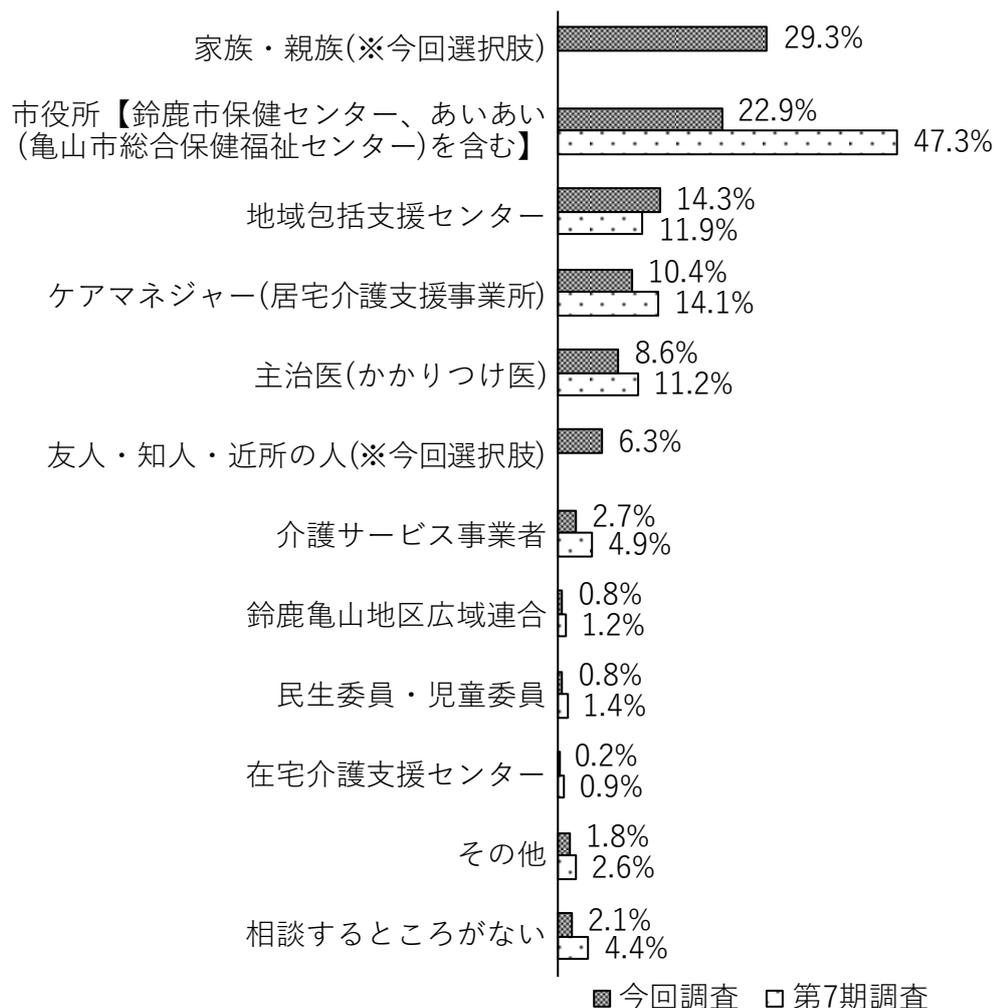
第7期調査と比較すると、「いる」が2.3ポイント上昇しています。



2 介護に関する考え方について

問7 あなたは、介護や保健福祉サービスについて相談したいとき、まずどこに相談しますか。(1つを選択) 【N=512、427(第7期調査)】

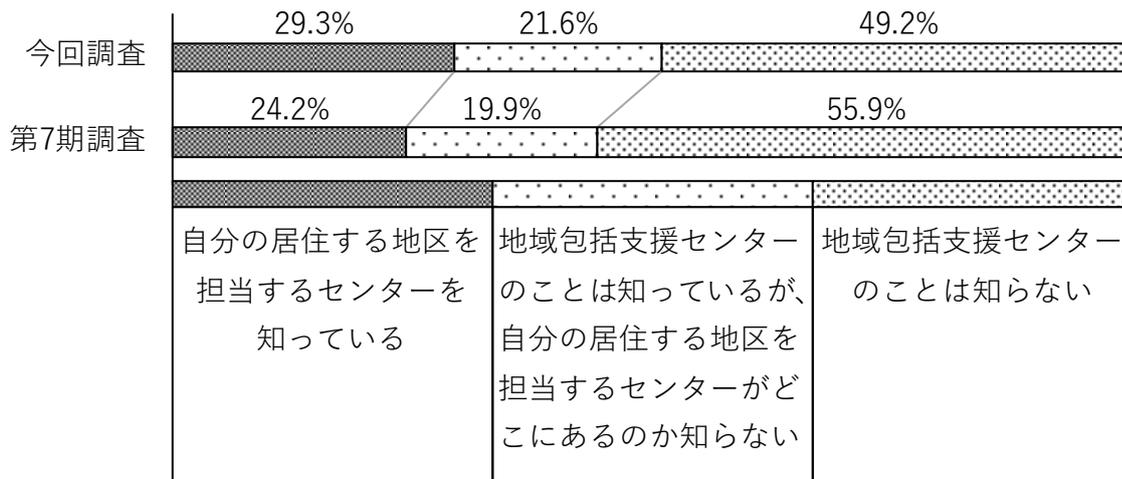
介護や保健福祉サービスの相談先については、「家族・親族」が29.3%と最も高く、次いで「市役所」(22.9%)、「地域包括支援センター」(14.3%)と続いています。一方、「相談するところがない」は2.1%となっています。



問8 鈴鹿亀山地区には、鈴鹿市内に4か所、亀山市内に1か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。(1つを選択) 【N=533、433(第7期調査)】

地域包括支援センターの認知状況については、「地域包括支援センターのことは知らない」が49.2%と最も高く、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は29.3%、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」は21.6%となっています。

第7期調査と比較すると、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が5.1ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

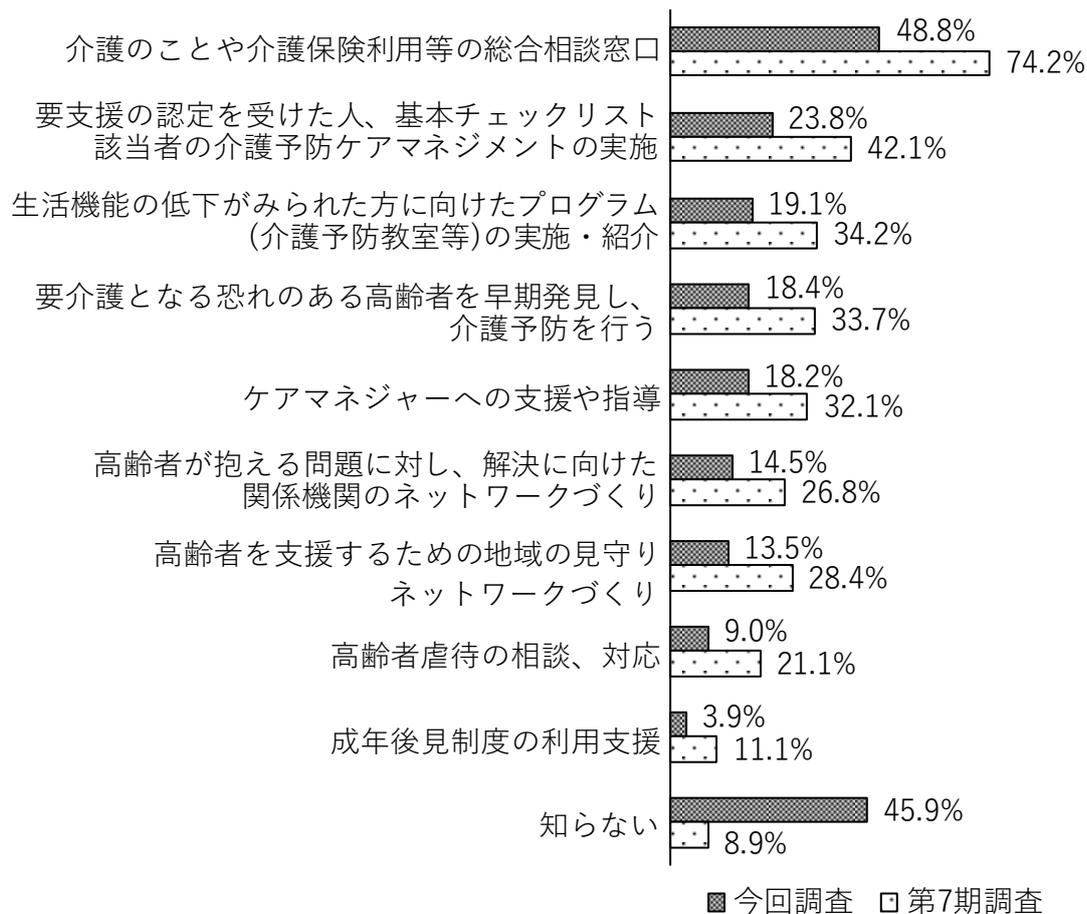
日常生活圏域別にみると、『亀山』では「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が40.5%と最も高くなっていますが、その他の日常生活圏域ではいずれも「地域包括支援センターのことは知らない」が最も高くなっています。

	合計	自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない	地域包括支援センターのことは知らない
全体	529	29.3	21.7	49.0
鈴鹿西部	112	28.6	19.6	51.8
鈴鹿北部	109	22.9	24.8	52.3
鈴鹿中部	87	25.3	20.7	54.0
鈴鹿南部	105	27.6	22.9	49.5
亀山	116	40.5	20.7	38.8

問9 「地域包括支援センター」の役割として知っているものはどれですか。(複数選択可)

【N=512、190(第7期調査)】

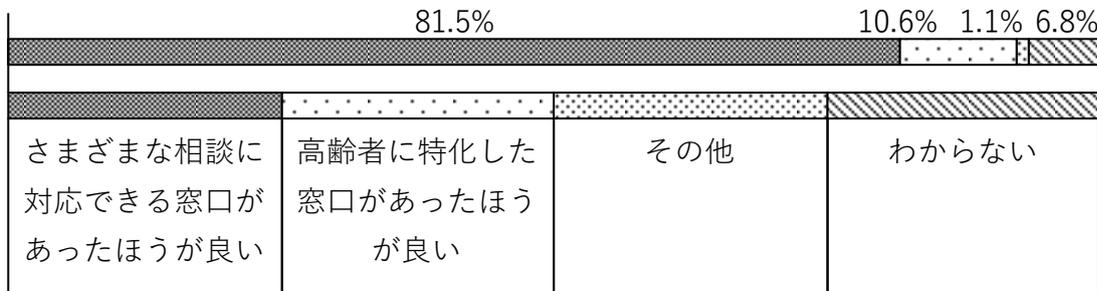
「地域包括支援センター」の役割として知っているものについては、「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」が48.8%と最も高く、次いで「要支援の認定を受けた人、基本チェックリスト該当者の介護予防ケアマネジメントの実施」(23.8%)、「生活機能の低下がみられた方に向けたプログラム(介護予防教室等)の実施・紹介」(19.1%)と続いています。一方、「知らない」は45.9%となっています。



※第7期調査の設問条件は前問で「1」または「2」と回答した方

問10 あなたは、高齢者だけでなく、障がい、子育て、生活困窮などさまざまな相談に対応する窓口についてどのように思いますか。(1つを選択) 【N=530】

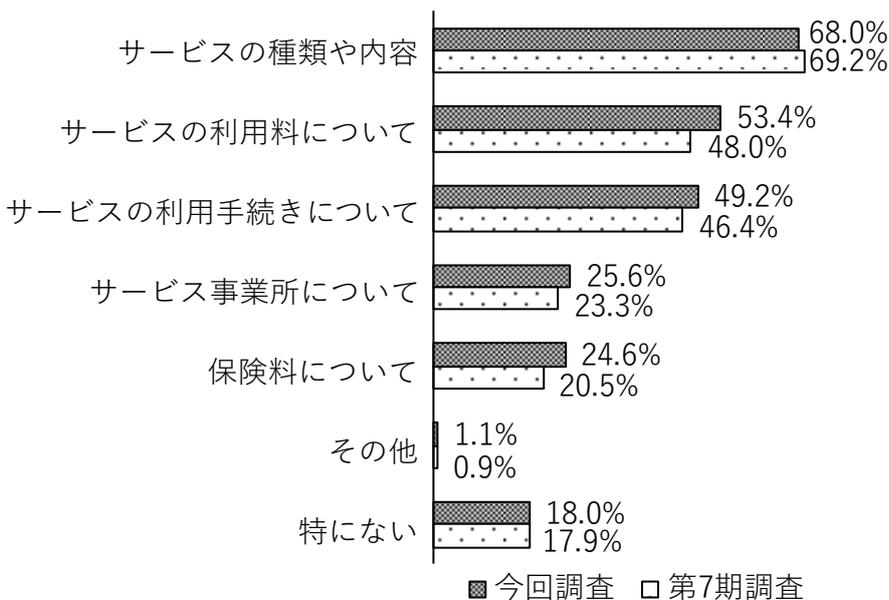
さまざまな相談に対応する窓口については、「さまざまな相談に対応できる窓口があったほうが良い」が81.5%を占めています。「高齢者に特化した窓口があったほうが良い」は10.6%、「わからない」は6.8%となっています。



問11 介護保険について知りたい情報がありますか。(複数選択可) 【N=528、429(第7期調査)】

介護保険について知りたい情報については、「サービスの種類や内容」が68.0%と最も高く、次いで「サービスの利用料について」(53.4%)、「サービスの利用手続きについて」(49.2%)と続いています。

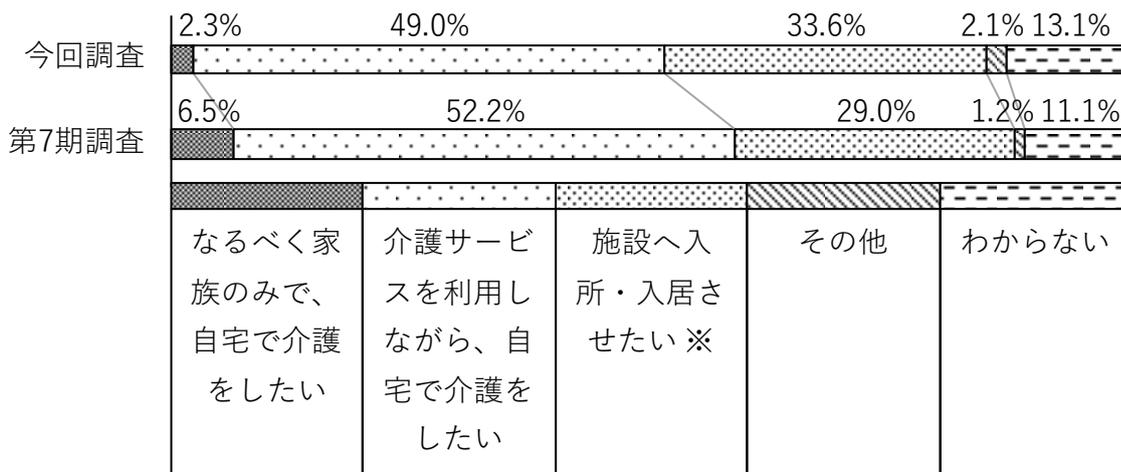
第7期調査と比較すると、「サービスの利用料について」が5.4ポイント、「保険料について」が4.1ポイント、それぞれ上昇しています。一方、「サービスの種類や内容」は1.2ポイント低下しています。



問12 あなたは、ご家族が介護が必要な状態になった場合(現在介護をしている場合も含む)、どのようにしたいですか。(1つを選択) 【N=527、431(第7期調査)】

今後、介護が必要な状態になった場合に希望する介護については、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が49.0%と最も高く、次いで「施設に入所・入居させたい」が33.6%、「わからない」が13.1%と続いています。

第7期調査と比較すると、「施設へ入所・入居させたい」が4.6ポイント上昇する一方、「なるべく家族のみで、自宅で介護をしたい」は4.2ポイント、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」は3.2ポイント、それぞれ低下しています。



※第7期調査の「施設に入所・入居させたい」は「サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホーム、ケアハウスに入居して、介護サービス等を利用しながら生活させたい」「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設に入所させたい」の合算

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が最も高く、特に『鈴鹿西部』では57.3%と高くなっています。一方、「施設に入所・入居させたい」は『鈴鹿西部』以外の日常生活圏域では30%を超えており、特に『亀山』(38.6%)と『鈴鹿北部』(37.4%)では高くなっています。

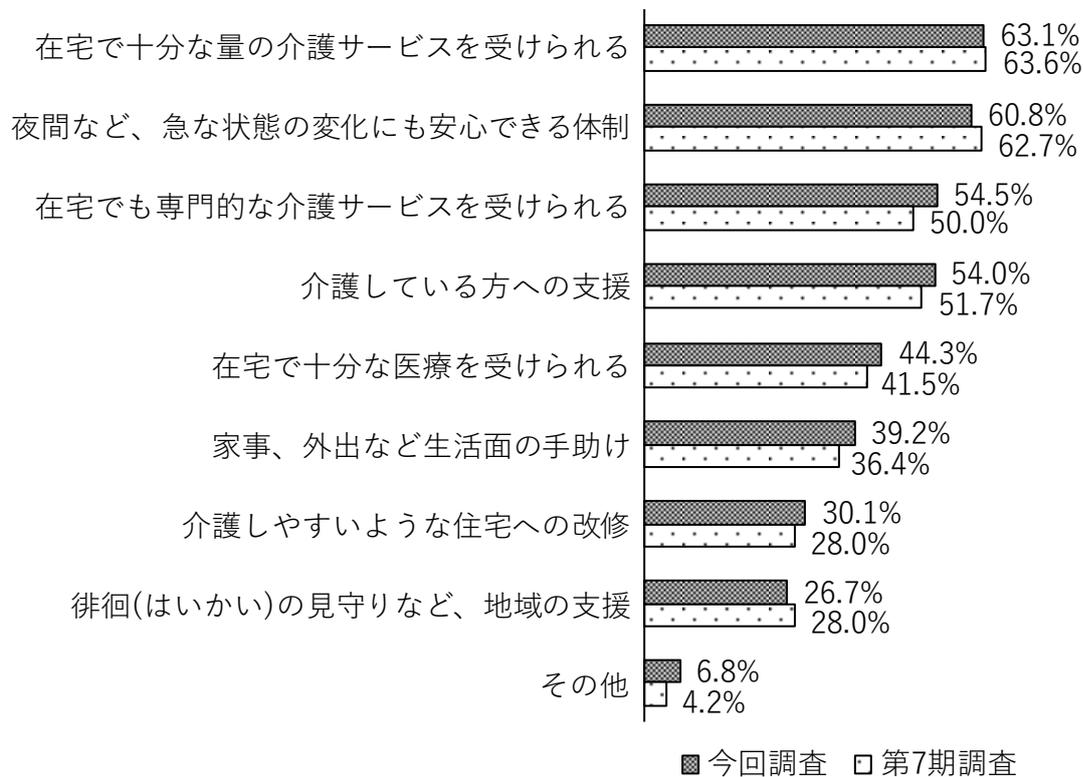
	合計	したい	なるべく家族のみ	で介護したい	介護サービスを利用しながら、自宅で	施設へ入所・入居させたい	その他	わからない
全体	522	2.3	48.9	33.7	2.1	13.0		
鈴鹿西部	110	1.8	57.3	27.3	1.8	11.8		
鈴鹿北部	107	2.8	43.0	37.4	1.9	15.0		
鈴鹿中部	87	2.3	42.5	34.5	2.3	18.4		
鈴鹿南部	104	2.9	51.9	30.8	2.9	11.5		
亀山	114	1.8	48.2	38.6	1.8	9.6		

問12で「3」と回答した方にお伺いします。

問12-② どのような条件を整えば、自宅で生活が続けることができると思いますか。(複数選択可) 【N=176、118(第7期調査)】

どのような条件を整えば、自宅で生活が続けることができると思うかについては、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が63.1%と最も高く、次いで「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」(60.8%)、「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」(54.5%)、「介護している方への支援」(54.0%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」が4.5ポイント上昇しています。

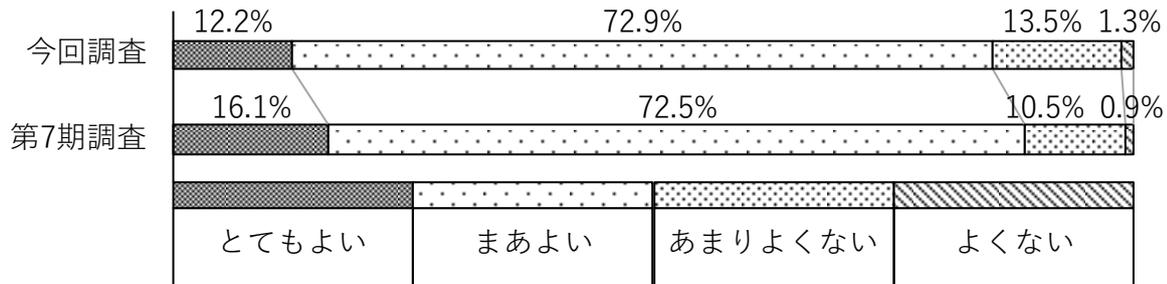


3 健康について

問13 ご自分の健康状態についてどう思われますか。(1つを選択) 【N=532、440(第7期調査)】

健康状態については、「とてもよい」(12.2%)、「まあよい」(72.9%)と回答した、『健康だと思っている人』が85.1%に上っています。一方、「あまりよくない」(13.5%)、「よくない」(1.3%)と回答した、『健康ではないと思っている人』は14.8%となっています。

第7期調査と比較すると、『健康だと思っている人』が3.5ポイント低下しています。

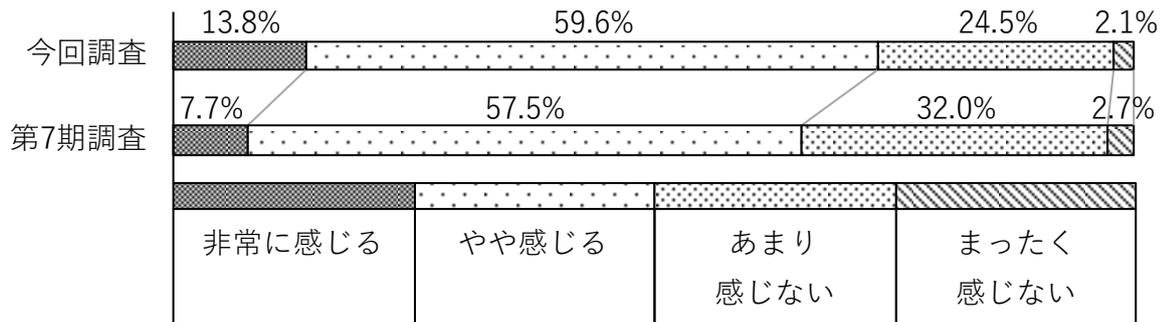


問14 あなたは、1年ほど前に比べて身体の衰えを感じますか。(1つを選択)

【N=530、440(第7期調査)】

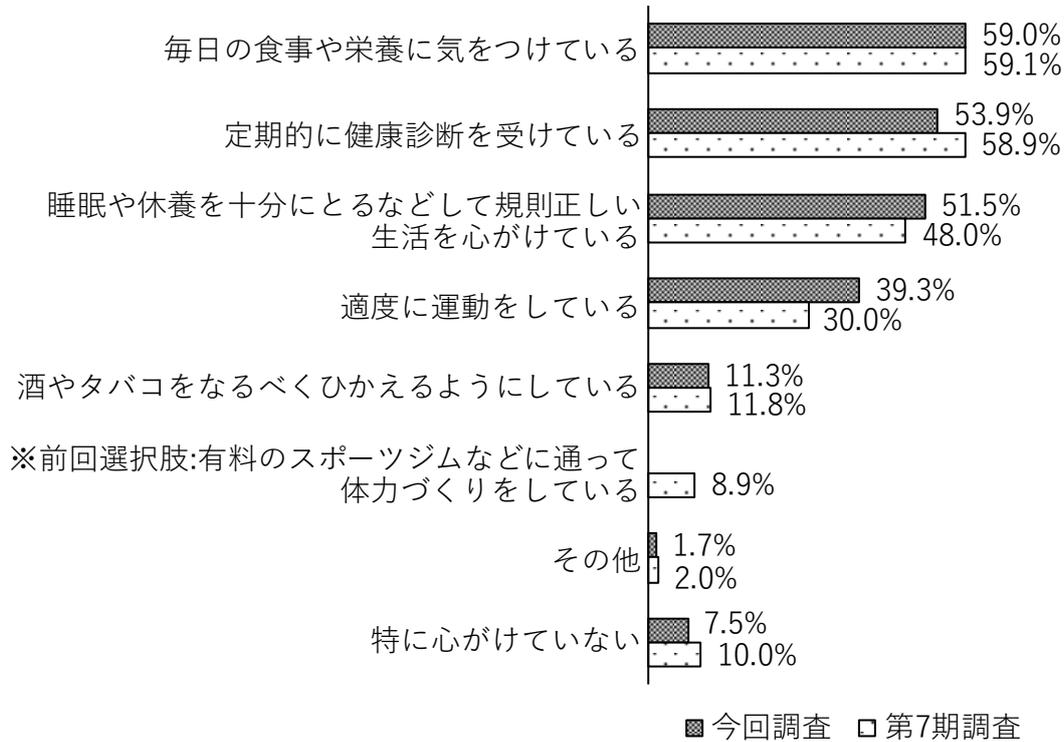
1年ほど前に比べて身体の衰えを感じるかどうかについては、「非常に感じる」(13.8%)、「やや感じる」(59.6%)と回答した、『衰えを感じる人』が73.4%に上っています。一方、「あまり感じない」(24.5%)、「まったく感じない」(2.1%)と回答した、『衰えを感じない人』は26.6%となっています。

第7期調査と比較すると、『衰えを感じる人』が8.2ポイント上昇しています。



問15 日頃、健康や介護予防(介護が必要な状態にならないようにすること)のためにどんなことを心がけていますか。(複数選択可) 【N=532、440(第7期調査)】

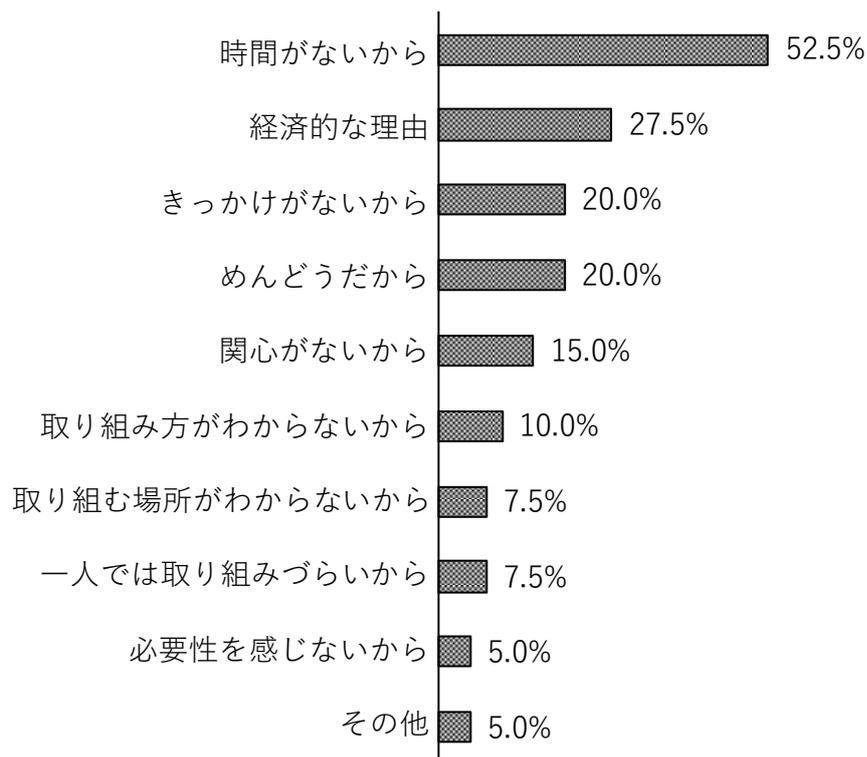
日頃、健康や介護予防のために心がけていることについては、「毎日の食事や栄養に気をつけている」が59.0%と最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けている」(53.9%)、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」(51.5%)と続いています。一方、「特に心がけていない」は7.5%となっています。



問15で「7」と回答した方にお伺いします。

問15—② 健康づくりや介護予防を心がけていない理由は何ですか。(複数選択可) 【N=40】

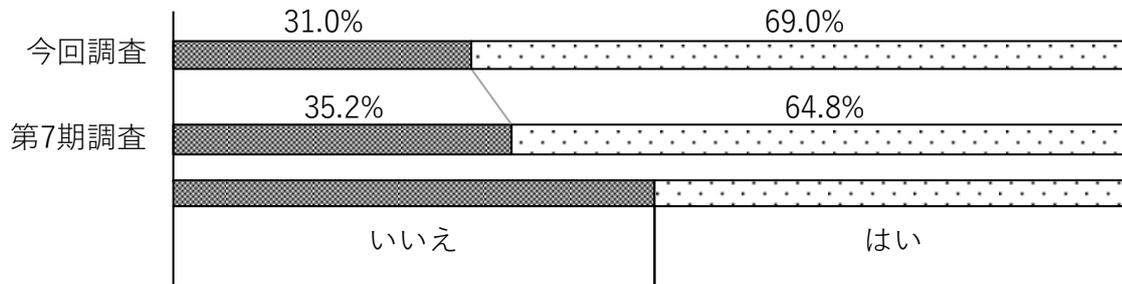
健康づくりや介護予防を心がけていない理由については、「時間がないから」が52.5%と最も高く、次いで「経済的な理由」(27.5%)、「きっかけがないから」(20.0%)と続いています。「経済的な理由」(27.5%)や「取り組み方がわからないから」(10.0%)、「一人では取り組みづらいから」(7.5%)、「取り組む場所がわからないから」(7.5%)など、介護予防に取り組む意思があるのに取り組んでいないと思われる人は合わせて52.5%あります。



問16 あなたには、「かかりつけ医(主治医)」または、いつもかかっている医療機関がありますか。
(1つを選択) 【N=532、440(第7期調査)】

「かかりつけ医」または、いつもかかっている医療機関がある人(「はい」と回答)は69.0%、ない人は31.0%となっています。

第7期調査と比較すると、「かかりつけ医」または、いつもかかっている医療機関がある人が4.2ポイント上昇しています。

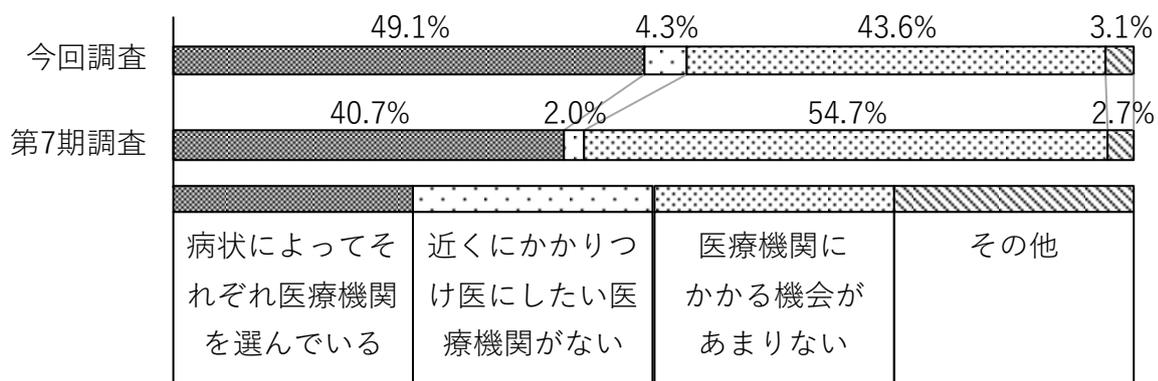


問16で「1」と回答した方にお伺いします。

問16-② 「かかりつけ医」をもたない主な理由は何ですか。(1つを選択)
【N=163、150(第7期調査)】

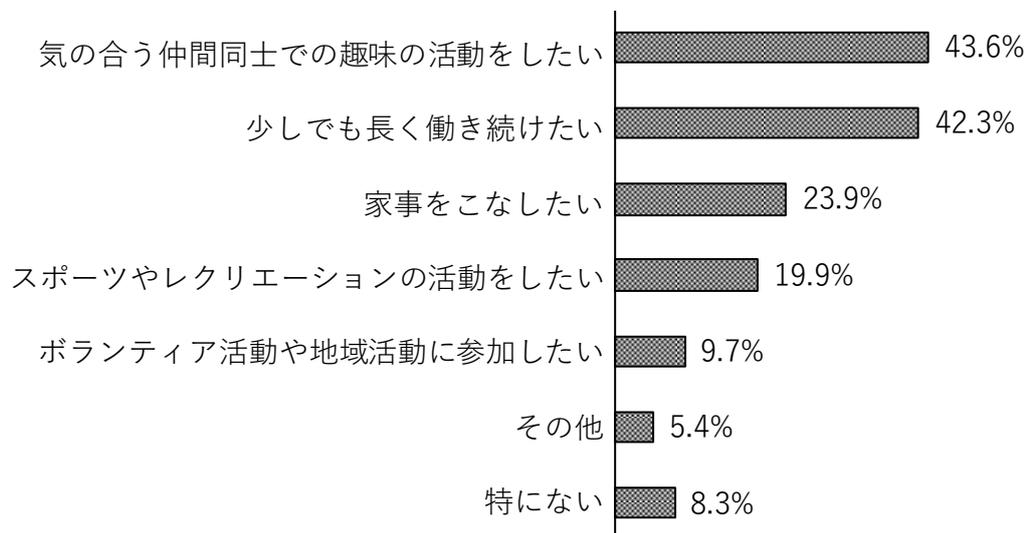
「かかりつけ医」をもたない主な理由については、「病状によってそれぞれ医療機関を選んでいる」が49.1%と最も高く、次いで「医療機関にかかる機会があまりない」が43.6%と続いています。一方、「近くにかかりつけ医にしたい医療機関がない」は4.3%となっています。

第7期調査と比較すると、「医療機関にかかる機会があまりない」が11.1ポイント低下する一方、「病状によってそれぞれ医療機関を選んでいる」が8.4ポイント上昇しています。



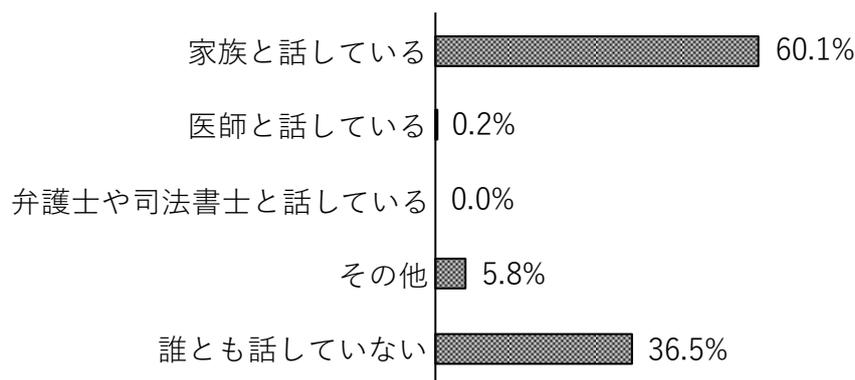
問17 あなたは、自分の健康や生きがいのために、どんなことをしたいと思いますか。(2つまで選択可) 【N=518】

自分の健康や生きがいのためにしたいことについては、「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」が43.6%、僅差で「少しでも長く働きたい」が42.3%と高く、次いで「家事をこなしたい」が23.9%で続いています。一方、「特にない」は8.3%となっています。



問18 あなたが人生の終末期のことについて話している相手はいますか。(複数選択可) 【N=531】

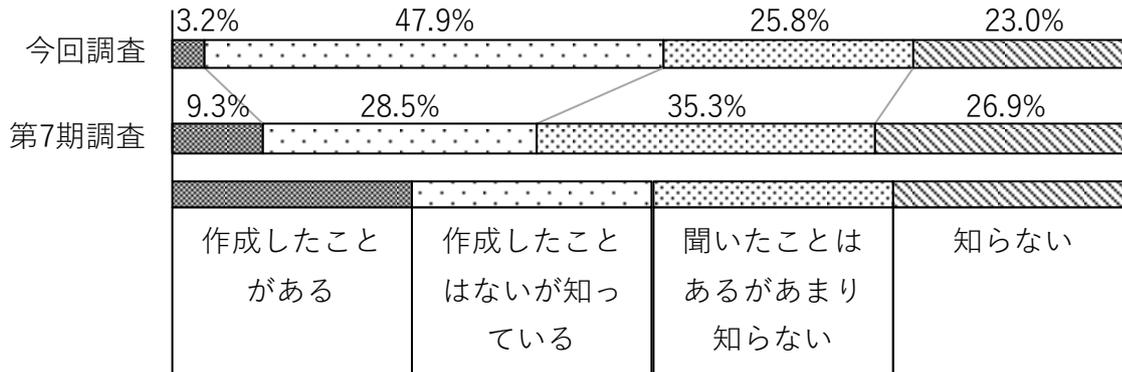
人生の終末期のことについて話している相手については、「家族と話している」が60.1%と最も高くなっています。一方、「誰とも話していない」は36.5%となっています。



問19 自身の終末期や死後に、家族が様々な判断や手続きを進める際に必要となる情報を残す「エンディングノート」を知っていますか。(1つを選択) 【N=534、439(第7期調査)】

「エンディングノート」の認知状況については、「作成したことはないが知っている」が47.9%と最も高く、「作成したことがある」(3.2%)を合わせると、『知っている』人は51.1%となっています。一方、「知らない」は23.0%となっており、「聞いたことはあるがあまり知らない」を合わせると『知らない』人は48.8%となっています。

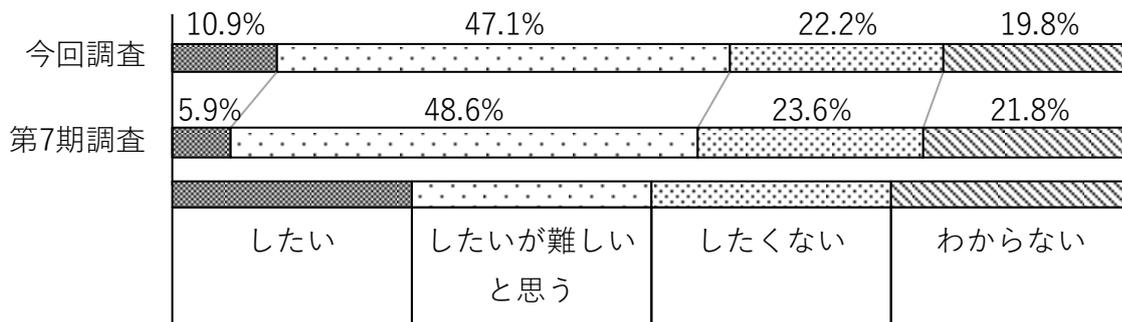
第7期調査と比較すると、『知っている』人が13.3ポイント上昇しています。



問20 あなたは、今後、自身のお身体の状態が悪くなり、介護が必要となったとき、自宅で最期まで療養したいと思いますか。(1つを選択) 【N=531、440(第7期調査)】

今後、介護が必要になったときに自宅で最期まで療養したいと思うかどうかについては、「したいが難しいと思う」が47.1%と最も高く、「したくない」は22.2%、「したい」は10.9%となっています。

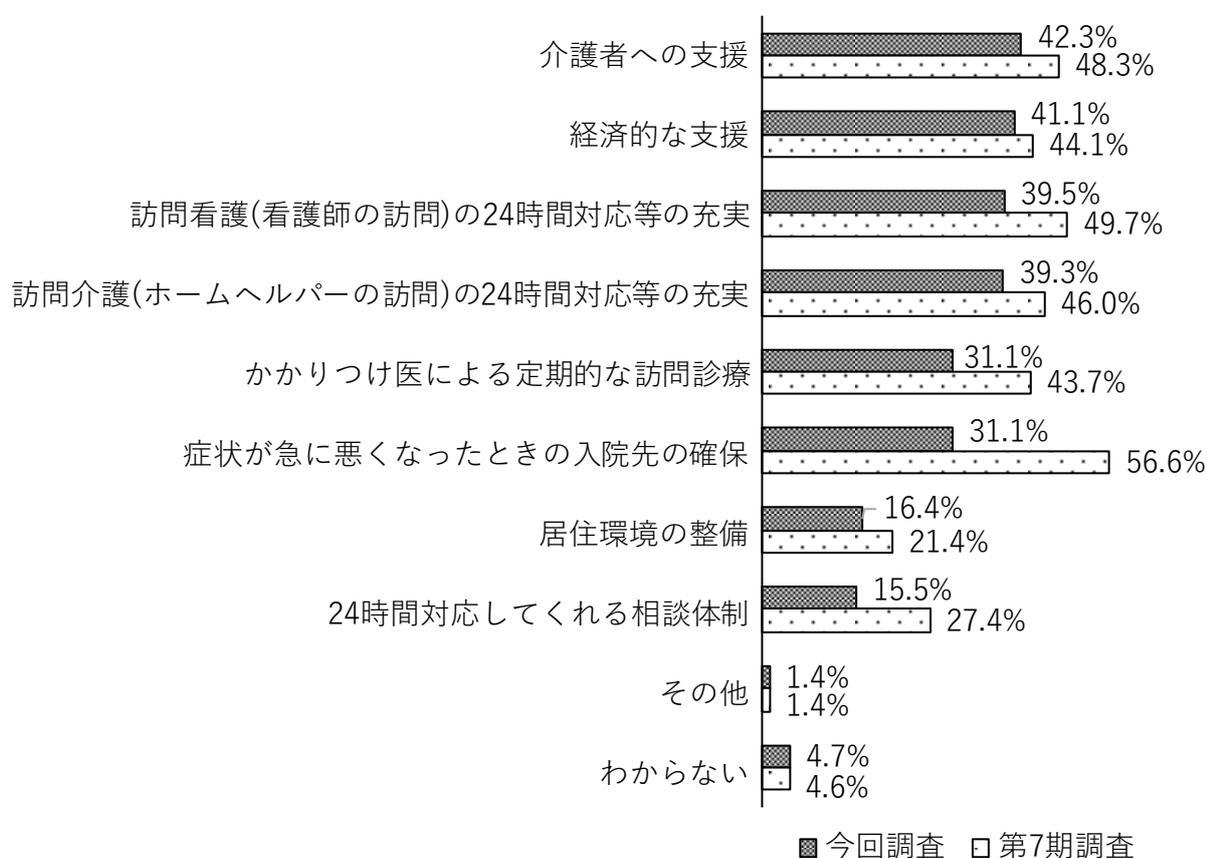
第7期調査と比較すると、「したい」が5.0ポイント上昇しています。



問21 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択可)
【N=511、435(第7期調査)】

自宅で最期まで療養するために必要だと思うことについては、「介護者への支援」が42.3%と最も高く、僅差で「経済的な支援」が41.1%が続いています。以下、「訪問看護(看護師の訪問)の24時間対応等の充実」(39.5%)、「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の24時間対応等の充実」(39.3%)と続いています。

第7期調査と比較すると、いずれの項目も低下しており、特に「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が25.5ポイント、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」が12.6ポイント、「24時間対応してくれる相談体制」が11.9ポイント、「訪問看護(看護師の訪問)の24時間対応等の充実」が10.2ポイント、それぞれ低下しています。

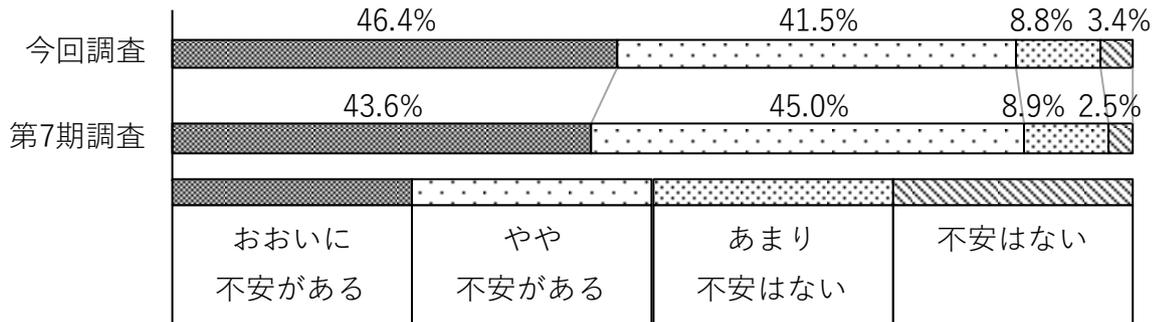


4 認知症について

問22 将来、ご自身やご家族が認知症になることに対して、不安がありますか。(1つを選択)
【N=535、436(第7期調査)】

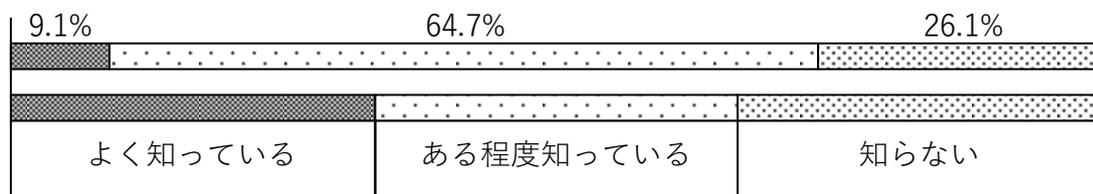
認知症になることに対する不安については、「おおいに不安がある」が46.4%、「やや不安がある」が41.5%と、合わせて87.9%が『不安がある』と回答しています。一方、「あまり不安はない」は8.8%、「不安はない」は3.4%と、合わせて12.2%が『不安はない』と回答しています。

第7期調査と比較すると、「おおいに不安がある」が2.8ポイント上昇しています。



問23 認知症は、単なる物忘れとは異なり、アルツハイマー病や脳血管障害などの病気が主な原因となって引き起こされるため、予防したり、進行を遅らせたりすることができると言われてい
ます。あなたは認知症についてどの程度知っていますか。(1つを選択) 【N=536】

認知症についての認知状況については、「ある程度知っている」が64.7%を占めており、「よく知っている」(9.1%)を合わせた『知っている』は73.8%となっています。一方、「知らない」は26.1%となっており、認知度は高いと言えます。



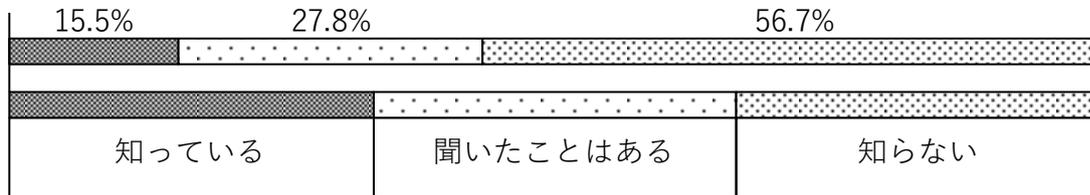
性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『知っている』は男性より女性の割合が高く、また、男女とも『60～64歳』の割合が高くなっています。特に、『60～64歳女性』では78.0%と高くなっています。

		合計	い よ く 知 っ て	知 あ つ る て 程 い 度 る	知 ら な い
男 性	全体	256	6.6	64.5	28.9
	55～59歳	127	8.7	59.1	32.3
	60～64歳	129	4.7	69.8	25.6
女 性	全体	272	11.8	65.1	23.2
	55～59歳	122	12.3	63.1	24.6
	60～64歳	150	11.3	66.7	22.0

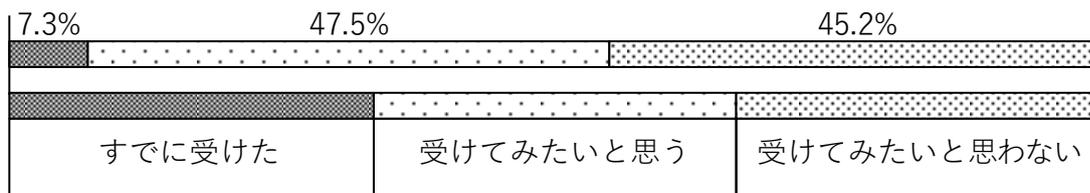
問24 「認知症サポーター」(認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者)についてご存知ですか。(1つを選択) 【N=536】

「認知症サポーター」の認知状況については、「知らない」が56.7%と過半数を占めており、「聞いたことはある」は27.8%、「知っている」は15.5%となっています。「認知症サポーター」の認知度はあまり高くありません。



問25 「認知症サポーター」の養成講座を受けてみたいと思いますか。(1つを選択) 【N=531】

「認知症サポーター」の養成講座の受講意向については、「受けたいと思う」が47.5%と最も高く、「すでに受けた」は7.3%となっています。一方、「受けたいと思わない」は45.2%となっています。



日常生活圏域別クロス

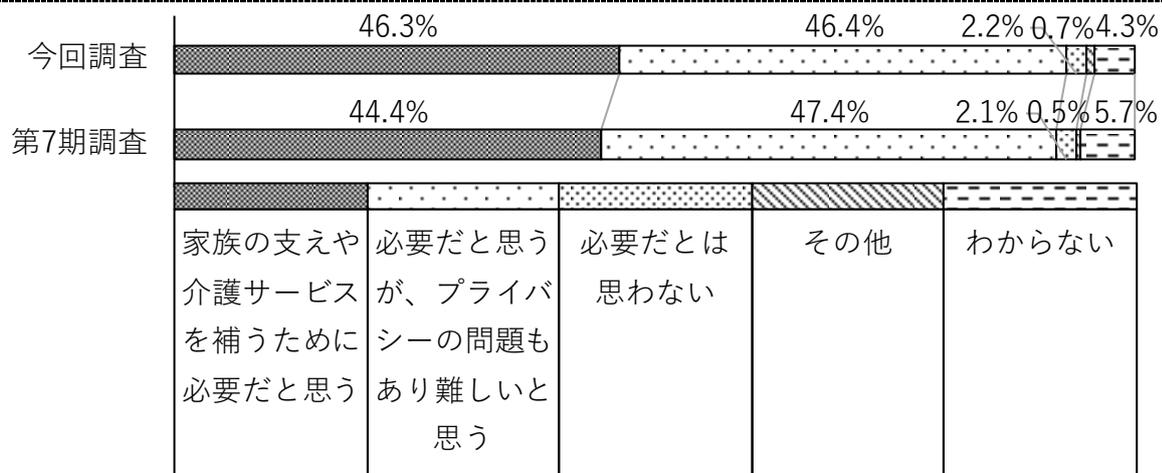
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿南部』では「すでに受けた」が11.4%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	すでに受けた	受けたいと思う	受けたいと思わない
全体	525	7.4	47.4	45.1
鈴鹿西部	113	7.1	48.7	44.2
鈴鹿北部	107	3.7	49.5	46.7
鈴鹿中部	86	7.0	47.7	45.3
鈴鹿南部	105	11.4	42.9	45.7
亀山	114	7.9	48.2	43.9

問26 認知症の高齢者が自宅で安心して生活するためには、介護保険サービスだけではなく地域住民の協力(見守りなど)は必要だと思いますか。(1つを選択) 【N=534、435(第7期調査)】

認知症高齢者が自宅で安心して生活するために、介護保険サービスだけではなく地域住民の協力が必要だと思うかどうかについては、「必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う」が46.4%、「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が46.3%と、ほぼ同率となっています。一方、「必要だとは思わない」は僅か2.2%となっています。

第7期調査と比較すると、「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が1.9ポイント上昇する一方、「必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う」は1.0ポイント低下しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿中部』と『亀山』では「必要だと思うが、プライバシーの問題もあり難しいと思う」がそれぞれ55.2%、48.3%と最も高くなっていますが、その他の日常生活圏域ではいずれも「家族の支えや介護サービスを補うために必要だと思う」が最も高くなっています。

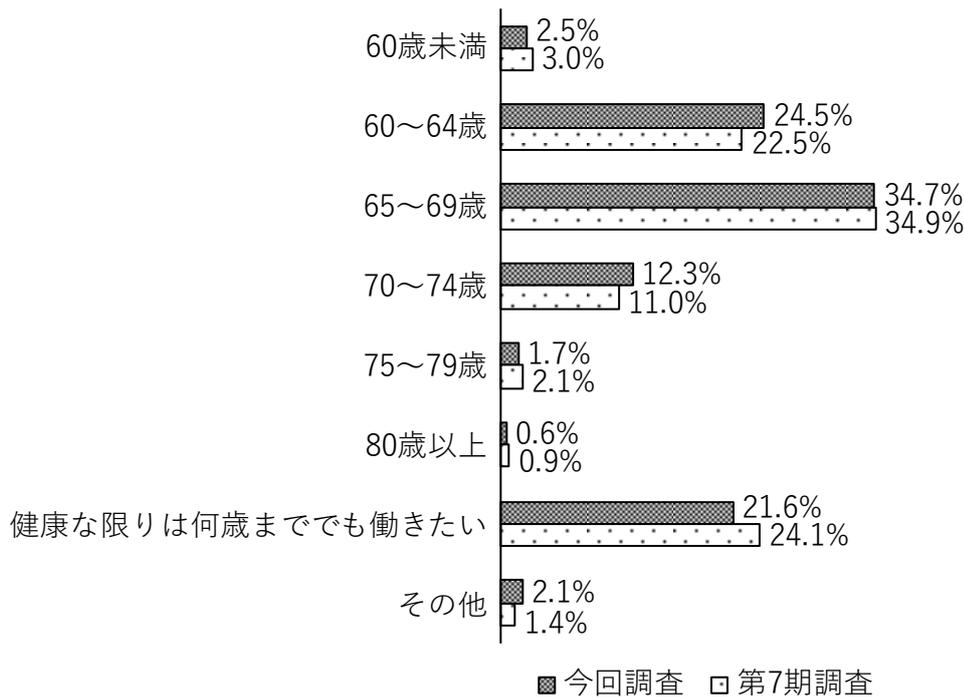
	合計	必要だとは思わない	必要だとは思わない	必要だとは思わない	その他	わからない
全体	528	46.4	46.4	2.1	0.8	4.4
鈴鹿西部	112	48.2	46.4	0.9	-	4.5
鈴鹿北部	108	47.2	41.7	3.7	0.9	6.5
鈴鹿中部	87	42.5	55.2	-	-	2.3
鈴鹿南部	105	47.6	41.9	4.8	1.0	4.8
亀山	116	45.7	48.3	0.9	1.7	3.4

5 地域のたすけあいについて

問27 職業生活から引退(定年とは限りません)する年齢についてどのように考えていますか。(1つを選択) 【N=522、427(第7期調査)】

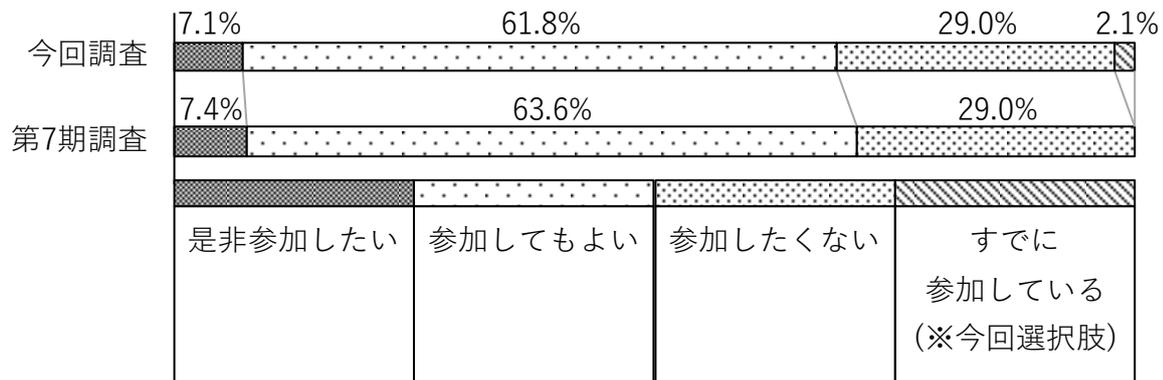
職業生活から引退する年齢については、「65～69歳」が34.7%と最も高く、次いで「60～64歳」(24.5%)、「健康な限りは何歳まででも働きたい」(21.6%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「60～64歳」が2.0ポイント上昇する一方、「健康な限りは何歳まででも働きたい」は2.5ポイント低下しています。



問28 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つを選択) 【N=524、434(第7期調査)】

健康づくり活動や趣味等のグループ活動による地域づくりに「是非参加したい」は7.1%、「参加してもよい」は61.8%と、合わせて68.9%の人に参加の意思があります。一方、「参加したくない」は29.0%となっています。また、「すでに参加している」は2.1%となっています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、参加の意思がある人は男性より女性の割合が高く、また、男女とも『60～64歳』の割合が高くなっています。特に、『60～64歳女性』では73.6%と高くなっています。

		合計	た是非参加し	よ参加しても	な参加したく	しすでにいる参加
男性	全体	255	3.9	60.4	33.7	2.0
	55～59歳	127	3.1	58.3	38.6	-
	60～64歳	128	4.7	62.5	28.9	3.9
女性	全体	262	10.3	62.2	25.2	2.3
	55～59歳	118	11.0	60.2	25.4	3.4
	60～64歳	144	9.7	63.9	25.0	1.4

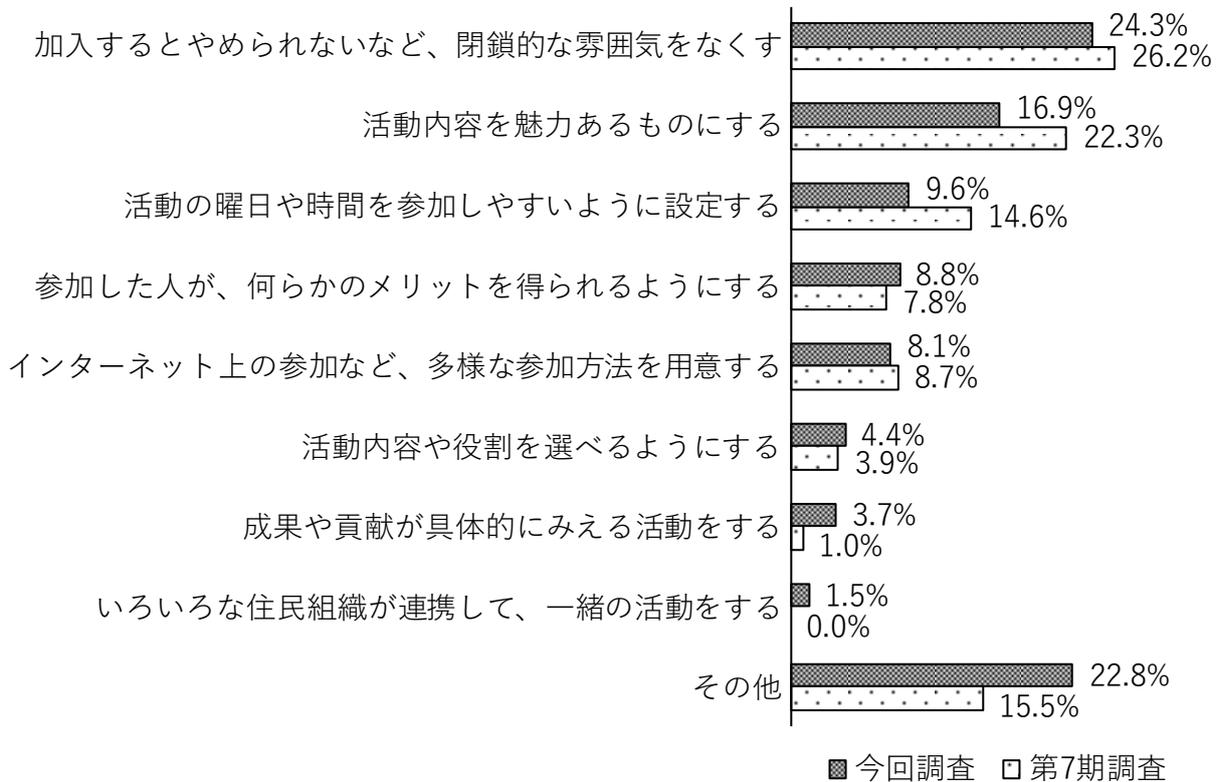
問28で「3」と回答した方にお伺いします。

問28-② どうすれば参加したいと思いますか。(1つを選択)

【N=136、103(第7期調査)】

どうすれば参加したいと思うかについては、「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気はなくす」が24.3%と最も高く、次いで「その他」(22.8%)、「活動内容を魅力あるものにする」(16.9%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「その他」が7.3ポイント上昇する一方、「活動内容を魅力あるものにする」が45.4ポイント、「活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する」が5.0ポイント、それぞれ低下しています。



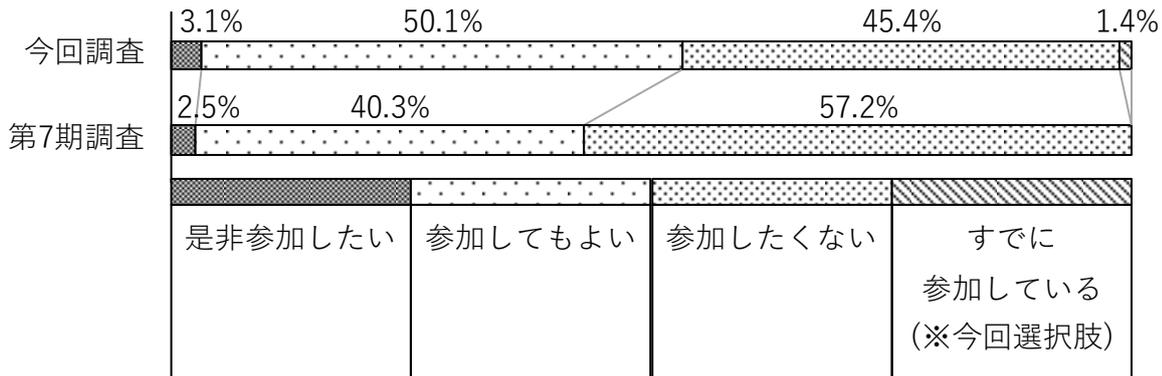
性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、女性ではどちらの年齢も「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気はなくす」が最も高く、特に『60～64歳女性』では40.0%と高くなっています。男性ではどちらの年齢も「その他」が最も高くなっています。また、男性ではどちらの年齢も「参加した人が、何らかのメリットを得られるようにする」が10%を超えています。

		合計	設定する	参加の曜日や時間を	参加方法を注意する	インターネット上での	閉鎖的な雰囲気なくす	加入するとやめられない	活動内容を魅力あるものにする	成果や貢献が具体的	活動内容や役割を定める	活動をする	いろいろな住民の	参加した人が、何らかのメリットを得られる	その他
男性	全体	79	7.6	10.1	17.7	19.0	3.8	3.8	2.5	13.9	21.5				
	55～59歳	47	8.5	8.5	19.1	19.1	4.3	4.3	2.1	12.8	21.3				
	60～64歳	32	6.3	12.5	15.6	18.8	3.1	3.1	3.1	15.6	21.9				
女性	全体	57	12.3	5.3	33.3	14.0	3.5	5.3	-	1.8	24.6				
	55～59歳	27	14.8	7.4	25.9	18.5	7.4	3.7	-	-	22.2				
	60～64歳	30	10.0	3.3	40.0	10.0	-	6.7	-	3.3	26.7				

問29 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(1つを選択) 【N=515、407(第7期調査)】

健康づくり活動や趣味等のグループ活動により地域づくりを進める際、企画・運営として「是非参加したい」は3.1%、「参加してもよい」は50.1%と、合わせて53.2%の人に参加の意思があります。一方、「参加したくない」は45.4%となっています。また、「すでに参加している」は1.4%となっています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、参加の意思がある人は男性より女性の割合が高くなっています。特に、『55～59歳女性』では58.6%と高くなっています。

		合計	是非参加し	よ参加しても	な参加したく	しすでにいる参加
男性	全体	250	2.4	45.6	50.0	2.0
	55～59歳	124	2.4	45.2	51.6	0.8
	60～64歳	126	2.4	46.0	48.4	3.2
女性	全体	258	3.9	53.5	41.9	0.8
	55～59歳	116	3.4	55.2	40.5	0.9
	60～64歳	142	4.2	52.1	43.0	0.7

問30 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。また参加したいですか。※①～⑧それぞれに1つを選択

会・グループ活動等への参加については、「参加している」は「⑧収入のある仕事」が35.8%と最も高く、「⑦町内会・自治会」が27.3%と続いています。また、「参加したいがしていない」は、「①ボランティアのグループ」、「②スポーツ関係のグループやクラブ」、「③趣味関係のグループ」、「④学習・教養サークル」、「⑤健康づくりや介護予防のための通いの場」などは40%を超えています。一方、「参加したくない」は「⑥老人クラブ」が84.7%と最も高くなっています。

第7期調査と比較すると、「⑦町内会・自治会」では「参加している」が17.6ポイント低下する一方、「参加したくない」が13.2ポイント上昇しています。また、「⑧収入のある仕事」では「参加している」が6.2ポイント上昇する一方、「参加したくない」は7.7ポイント低下しています。

グループ	調査期	参加している	参加したいがしていない	参加したくない
①ボランティアのグループ 【N=466、362(第7期調査)】	今回調査	7.5%	44.8%	47.6%
	第7期調査	7.5%	44.5%	48.1%
②スポーツ関係のグループやクラブ 【N=471、377(第7期調査)】	今回調査	15.5%	43.3%	41.2%
	第7期調査	15.9%	40.6%	43.5%
③趣味関係のグループ 【N=470、375(第7期調査)】	今回調査	13.4%	60.2%	26.4%
	第7期調査	13.9%	56.5%	29.6%
④学習・教養サークル 【N=463、362(第7期調査)】	今回調査	5.0%	51.2%	43.8%
	第7期調査	4.1%	47.8%	48.1%
⑤健康づくりや介護予防のための通いの場 【N=465、365(第7期調査)】	今回調査	2.6%	55.5%	41.9%
	第7期調査	2.7%	57.5%	39.7%
⑥老人クラブ 【N=452、356(第7期調査)】	今回調査	0.7%	14.6%	84.7%
	第7期調査	0.3%	21.6%	78.1%
⑦町内会・自治会 【N=465、376(第7期調査)】	今回調査	27.3%	20.9%	51.8%
	第7期調査	44.9%	16.5%	38.6%
⑧収入のある仕事 【N=464、371(第7期調査)】	今回調査	35.8%	36.6%	27.6%
	第7期調査	29.6%	35.0%	35.3%
		参加している	参加したいが していない	参加したくない

※第7期調査では「⑤健康づくりや介護予防のための通いの場」は「健康づくりや介護予防事業の教室」

(上段:件数、下段:%)

	参加している	て参加したいが	参加したくない
①ボランティアのグループ	35	209	222
	7.5	44.8	47.6
②スポーツ関係のグループやクラブ	73	204	194
	15.5	43.3	41.2
③趣味関係のグループ	63	283	124
	13.4	60.2	26.4
④学習・教養サークル	23	237	203
	5.0	51.2	43.8
⑤健康づくりや介護予防のための通いの場	12	258	195
	2.6	55.5	41.9
⑥老人クラブ	3	66	383
	0.7	14.6	84.7
⑦町内会・自治会	127	97	241
	27.3	20.9	51.8
⑧収入のある仕事	166	170	128
	35.8	36.6	27.6

⑧収入のある仕事

性・年齢別クロス

「⑧収入のある仕事」について性・年齢別にみると、『55～59歳男性』では「参加したいがしていない」が45.8%と最も高くなっています。その他の性・年齢ではいずれも「参加している」が最も高く、特に『55～59歳女性』では43.7%と高くなっています。

		合計	参加している	て参加 しない たいが し	参加 した く ない
男性	全体	229	32.8	39.7	27.5
	55～59歳	120	29.2	45.8	25.0
	60～64歳	109	36.7	33.0	30.3
女性	全体	230	39.6	32.6	27.8
	55～59歳	103	43.7	33.0	23.3
	60～64歳	127	36.2	32.3	31.5

日常生活圏域別クロス

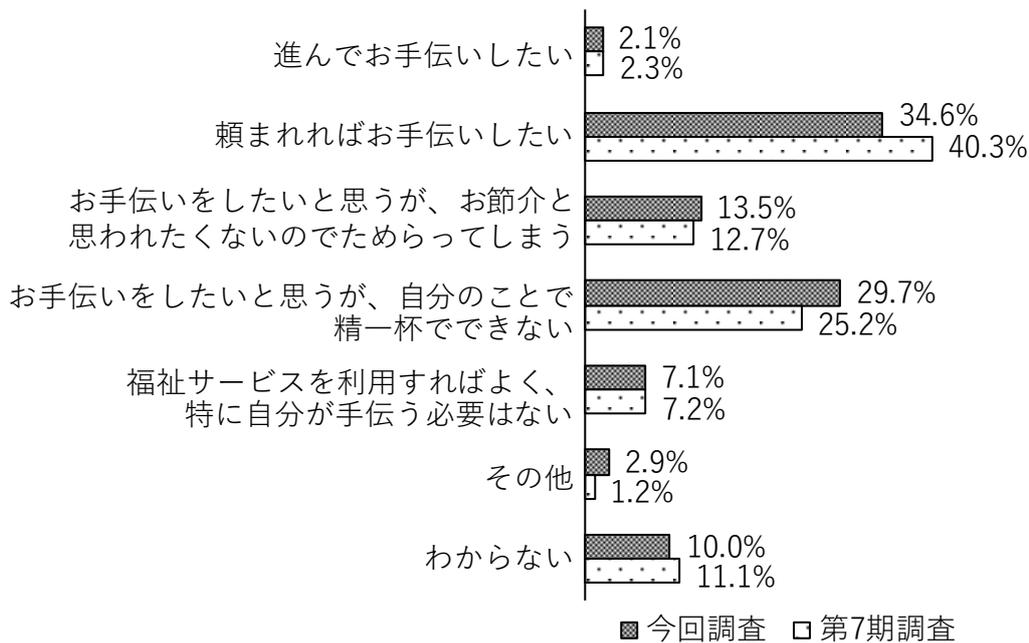
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿南部』では「参加している」が43.5%と高くなっています。また、『鈴鹿中部』では「参加している」と「参加したいがしていない」が同率(39.2%)となっています。その他の日常生活圏域ではいずれも「参加したいがしていない」が最も高くなっています。一方、『鈴鹿北部』では「参加したくない」が32.3%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	参加している	て参加 しない たいが し	参加 した く ない
全体	460	35.9	36.7	27.4
鈴鹿西部	104	33.7	40.4	26.0
鈴鹿北部	96	33.3	34.4	32.3
鈴鹿中部	74	39.2	39.2	21.6
鈴鹿南部	92	43.5	29.3	27.2
亀山	94	30.9	40.4	28.7

問31 あなたのご近所で、高齢者のみの世帯など、手助けが必要な世帯があったら、どんな対応をしますか。(1つを選択) 【N=518、432(第7期調査)】

手助けが必要な世帯への対応については、「頼まれればお手伝いしたい」が34.6%と最も高くなっており、「進んでお手伝いしたい」(2.1%)、「お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう」(13.5%)を合わせると、『お手伝いしたい』は50.2%となっています。次いで、「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が29.7%で続いています。

第7期調査と比較すると、「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が4.5ポイント上昇する一方、「頼まれればお手伝いしたい」は5.7ポイント低下し、『お手伝いしたい』は5.1ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『55～59歳男性』では「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が34.9%と最も高くなっていますが、その他の性・年齢ではいずれも「頼まれればお手伝いしたい」が最も高くなっています。『お手伝いしたい』は男性より女性の割合が高く、特に『60～64歳女性』では56.0%と高くなっています。

		合計	進んでお手伝いしたい	頼まれればお手伝いしたい	いのお節介らつてしまいたくない	お手伝いをしたいと思うが、お節介らつてしまいたくない	できない自分のことで精一杯で	お手伝いをしたいと思うが、お節介らつてしまいたくない	よく、特に自分が手伝えれば	福祉サービスを利用すれば	その他	わからない
男性	全体	253	1.6	30.0	14.6	31.2	8.3	3.2	11.1			
	55～59歳	126	3.2	28.6	15.1	34.9	6.3	3.2	8.7			
	60～64歳	127	-	31.5	14.2	27.6	10.2	3.1	13.4			
女性	全体	258	2.7	38.4	12.8	27.9	6.2	2.7	9.3			
	55～59歳	115	2.6	41.7	7.0	27.0	8.7	1.7	11.3			
	60～64歳	143	2.8	35.7	17.5	28.7	4.2	3.5	7.7			

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿中部』では「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が32.1%と最も高くなっていますが、その他の日常生活圏域ではいずれも「頼まればお手伝いしたい」が最も高くなっています。『お手伝いしたい』は『亀山』では54.5%と高くなっています。

	合計	進んでお手伝いしたい	頼まればお手伝いしたい	いのお節介らつてしまおう	が、お手伝いをしたいと思う	お手伝いをしたいと思う	できない自分のことで精一杯で	お手伝いをしたいと思う	要はない	よく、特に自分が手伝うれば	福祉サービスを利用すれば	その他	わからない
全体	513	2.1	34.9	13.6	29.6	6.8	2.9	9.9					
鈴鹿西部	111	2.7	33.3	14.4	31.5	7.2	-	10.8					
鈴鹿北部	106	1.9	34.9	13.2	28.3	6.6	4.7	10.4					
鈴鹿中部	84	1.2	29.8	17.9	32.1	8.3	1.2	9.5					
鈴鹿南部	102	2.0	34.3	12.7	30.4	7.8	2.9	9.8					
亀山	110	2.7	40.9	10.9	26.4	4.5	5.5	9.1					

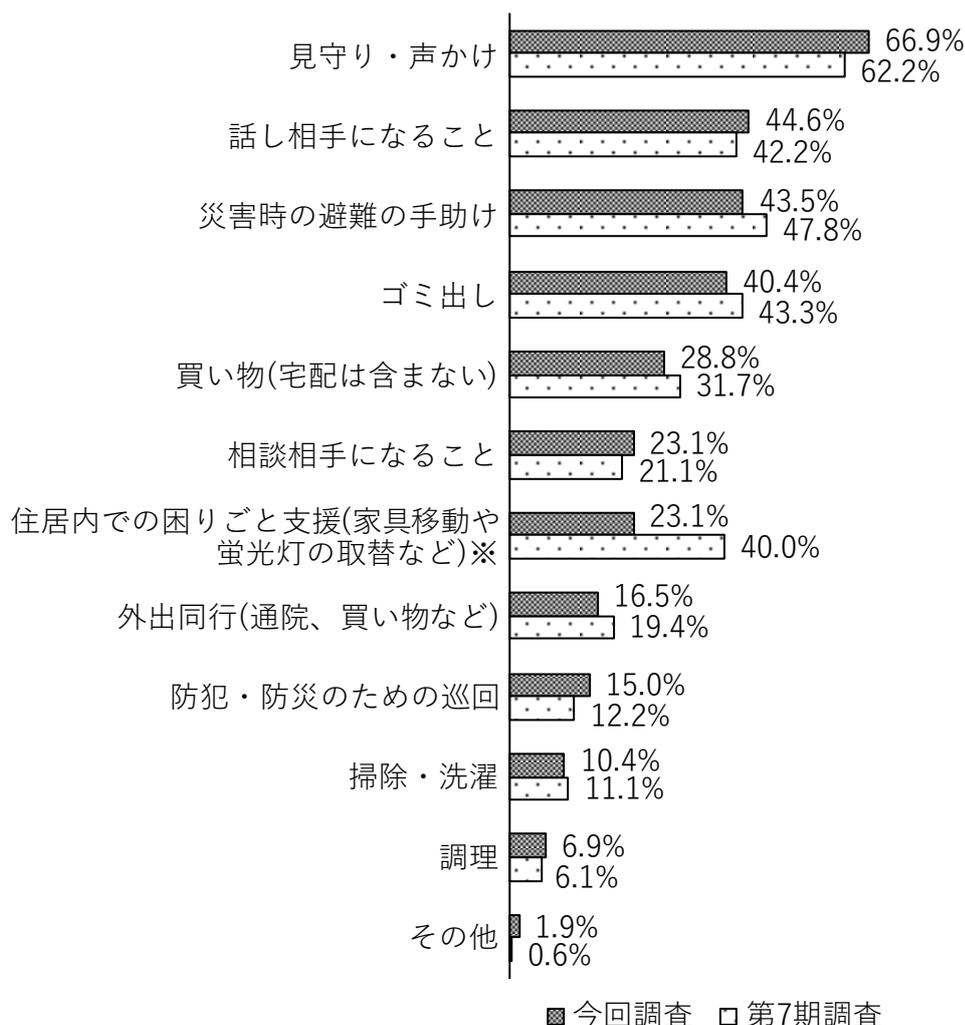
問31で「1」「2」「3」と回答した方にお伺いします。

問31-② 具体的にどのような手助けができると思いますか。(複数選択可)

【N=260、180(第7期調査)】

具体的にできると思う手助けについては、「見守り・声かけ」が66.9%と最も高く、次いで「話し相手になること」(44.6%)、「災害時の避難の手助け」(43.5%)と続いています。

第7期調査と比較すると、「見守り・声かけ」が4.7ポイント上昇する一方、「住居内での困りごと支援(家具移動や蛍光灯の取替など)」は16.9ポイント低下しています。



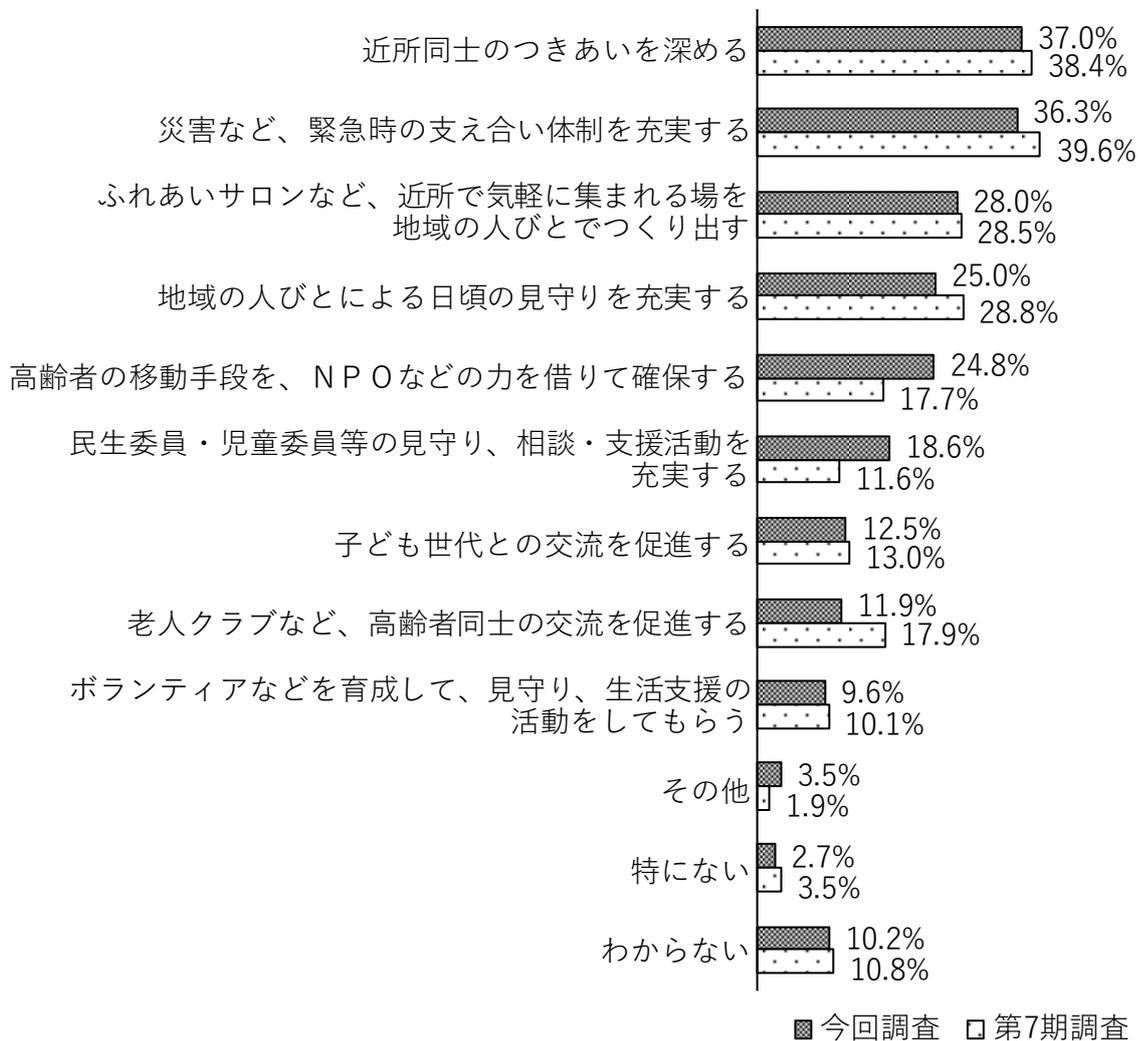
※第7期調査の設問条件は前問で「1」または「2」と回答した方

「住居内での困りごと支援(家具移動や蛍光灯の取替など)」については、前回選択肢「住居内の荷物の移動」と「高い所の作業(蛍光灯の取替など)」の合算

問32 あなたは今、住んでいる地域(地区、自治会など)が高齢者にとって暮らしやすい地域にするためには、どんなことが重要だと思いますか。(3つまで選択可) 【N=521、424(第7期調査)】

高齢者にとって暮らしやすい地域にするために重要だと思うことについては、「近所同士のつきあいを深める」が37.0%と最も高く、次いで「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」(36.3%)、「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」(28.0%)と続き、コミュニティ組織や緊急時対策、交流機会が重視されています。

第7期調査と比較すると、「高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する」が7.1ポイント、「民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する」が7.0ポイント、それぞれ上昇する一方、「老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する」は6.0ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『55～59歳男性』と『60～64歳女性』では「近所同士のつきあいを深める」がそれぞれ40.5%、41.4%と最も高くなっています。『60～64歳男性』と『55～59歳女性』では「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」がそれぞれ41.6%、34.7%と最も高くなっています。

		合計	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなどで気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人のつよみによる日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する
男性	全体	251	14.3	12.4	36.7	23.1	25.1	19.5
	55～59歳	126	19.0	13.5	40.5	21.4	31.0	22.2
	60～64歳	125	9.6	11.2	32.8	24.8	19.2	16.8
女性	全体	263	9.9	11.0	37.6	32.3	24.7	18.3
	55～59歳	118	6.8	14.4	33.1	33.1	19.5	17.8
	60～64歳	145	12.4	8.3	41.4	31.7	29.0	18.6

		ボランティアなど、見守り、生活支援の活動をしてもらう	高齢者の力を借りて、確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特にない	わからない
男性	全体	7.6	22.7	35.5	2.4	3.6	12.0
	55～59歳	9.5	23.8	29.4	1.6	3.2	10.3
	60～64歳	5.6	21.6	41.6	3.2	4.0	13.6
女性	全体	11.4	26.2	37.3	4.6	1.9	8.7
	55～59歳	12.7	33.9	34.7	5.9	3.4	8.5
	60～64歳	10.3	20.0	39.3	3.4	0.7	9.0

世帯状況別クロス

世帯状況別にみると、『65歳以上の方がいる』では「近所同士のつきあいを深める」(40.7%)が、『65歳以上の方はいない』では「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」(37.5%)が、それぞれ最も高くなっています。

	合計	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	見守りの人びとによる日頃の地域を充実する	民生委員・相談・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する
全体	517	12.6	12.0	37.1	27.9	24.8	18.8
65歳以上の方がいる	216	12.5	9.7	40.7	28.7	26.4	16.7
65歳以上の方はいない	301	12.6	13.6	34.6	27.2	23.6	20.3
		高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし	わからない	
全体	9.7	24.6	36.0	3.5	2.7	10.3	
65歳以上の方がいる	9.7	25.5	33.8	4.6	1.9	11.1	
65歳以上の方はいない	9.6	23.9	37.5	2.7	3.3	9.6	

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』『鈴鹿南部』では「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」(43.1%、39.8%)が、『鈴鹿北部』『鈴鹿中部』『亀山』では「近所同士のつきあいを深める」(40.0%、35.7%、41.2%)が、それぞれ最も高くなっています。

	合計	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す	地域の人のつよみによる日頃の見守りを充実する	民生委員・相談・児童委員等の見守り、相談・支援活動を充実する
全体	515	12.6	12.0	37.3	28.2	25.2	18.4
鈴鹿西部	109	11.9	11.9	31.2	25.7	22.0	17.4
鈴鹿北部	105	16.2	13.3	40.0	21.9	16.2	18.1
鈴鹿中部	84	7.1	13.1	35.7	28.6	29.8	23.8
鈴鹿南部	103	11.7	9.7	37.9	39.8	35.9	18.4
亀山	114	14.9	12.3	41.2	25.4	23.7	15.8

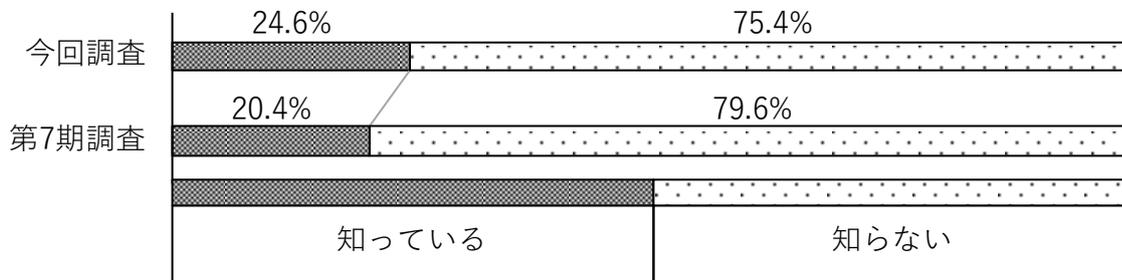
	ボランティアなど、生活支援の活動をしてもらう	高齢者の移動手段を、NPOなどの力を借りて確保する	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし	わからない
全体	9.7	24.3	36.5	3.5	2.3	10.3
鈴鹿西部	9.2	22.9	43.1	4.6	2.8	10.1
鈴鹿北部	9.5	25.7	36.2	4.8	3.8	7.6
鈴鹿中部	8.3	16.7	34.5	3.6	2.4	11.9
鈴鹿南部	11.7	25.2	39.8	3.9	-	5.8
亀山	9.6	28.9	28.9	0.9	2.6	15.8

問33 あなたは、災害時要援護者支援活動を知っていますか。(1つを選択)

【N=529、437(第7期調査)】

災害時要援護者支援活動の認知状況については、「知っている」が24.6%、「知らない」が75.4%となっており、認知度は低くなっています。

第7期調査と比較すると、「知っている」が4.2ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

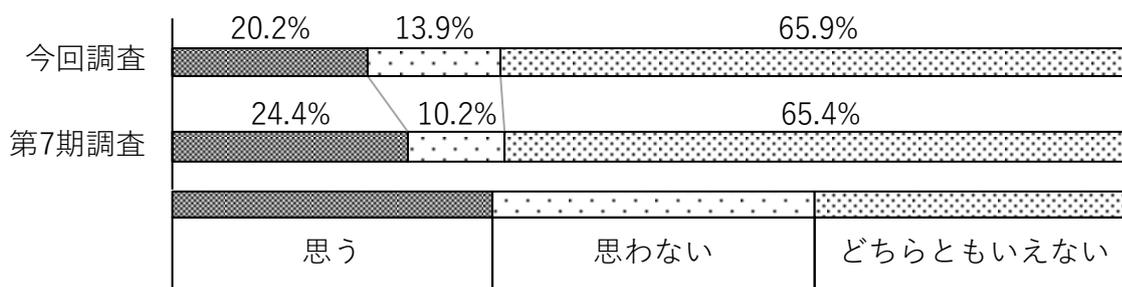
日常生活圏域別にみると、『亀山』では「知っている」が34.2%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	知っている	知らない
全体	523	24.7	75.3
鈴鹿西部	111	24.3	75.7
鈴鹿北部	109	20.2	79.8
鈴鹿中部	84	19.0	81.0
鈴鹿南部	105	23.8	76.2
亀山	114	34.2	65.8

問34 あなたは、災害時要援護者支援活動において、「支援を必要とする人」の支援者になってもよいと思いますか。(1つを選択) 【N=531、431(第7期調査)】

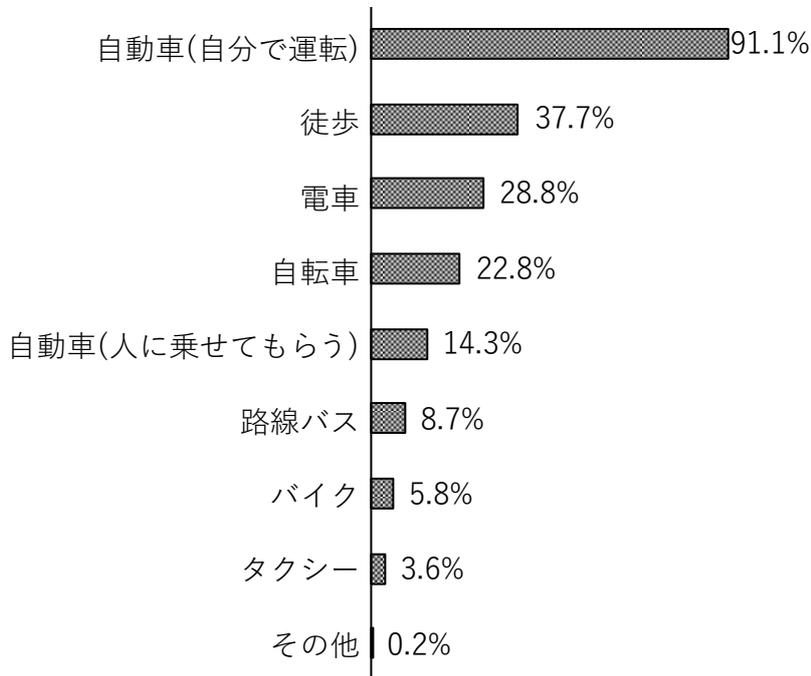
災害時要援護者支援活動において、「支援を必要とする人」の支援者になってもよいと思うかどうかについては、「どちらともいえない」が65.9%と最も高くなっています。「思う」は20.2%、「思わない」は13.9%となっています。

第7期調査と比較すると、「思わない」が3.7ポイント上昇する一方、「思う」は4.2ポイント低下しています。



問35 外出する際の移動手段は何ですか。(複数選択可) 【N=531】

外出する際の移動手段については、「自動車(自分で運転)」が91.1%と突出して高く、次いで「徒歩」(37.7%)、「電車」(28.8%)、「自転車」(22.8%)と続いています。



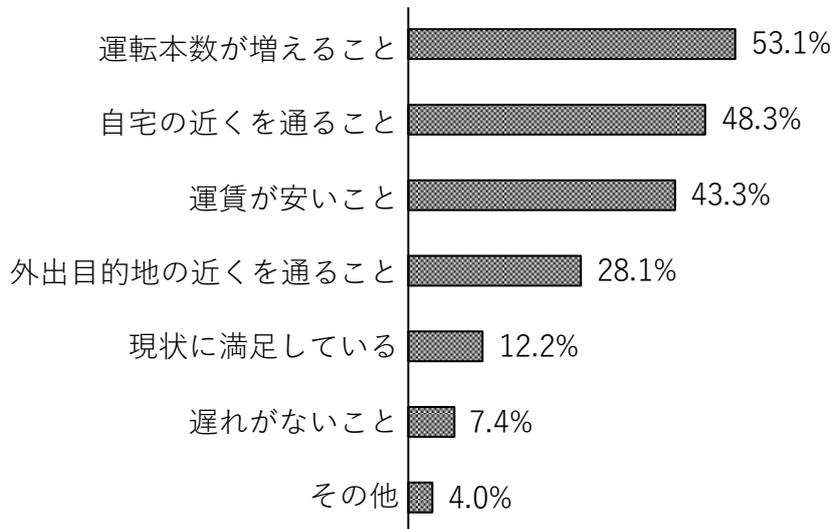
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「自動車(自分で運転)」が最も高くなっています。一方、『鈴鹿中部』では「路線バス」が17.4%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。また、『鈴鹿北部』『鈴鹿中部』『鈴鹿南部』では「電車」が30%を超えて高くなっています。

	合計	徒歩	自転車	バイク	運転 自動車 (自分で)	自動車 (人に乗 せてもらう)	電車	路線バス	タクシー	その他
全体	525	37.9	22.9	5.7	91.2	14.3	28.8	8.8	3.6	0.2
鈴鹿西部	111	35.1	24.3	4.5	91.0	13.5	26.1	12.6	4.5	-
鈴鹿北部	109	41.3	32.1	5.5	85.3	17.4	39.4	5.5	5.5	-
鈴鹿中部	86	46.5	30.2	7.0	87.2	18.6	34.9	17.4	3.5	-
鈴鹿南部	104	43.3	20.2	9.6	96.2	15.4	37.5	8.7	1.9	1.0
亀山	115	26.1	9.6	2.6	95.7	7.8	8.7	1.7	2.6	-

問36 あなたが公共交通に望むことは何ですか。(複数選択可) 【N=524】

公共交通に望むことについては、「運転本数が増えること」が53.1%と最も高く、次いで「自宅の近くを通ること」(48.3%)、「運賃が安いこと」(43.3%)と続いています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿西部』『鈴鹿南部』『亀山』では「運転本数が増えること」が最も高く、特に『亀山』では64.0%と高くなっています。『鈴鹿北部』『鈴鹿中部』では「自宅の近くを通ること」(48.1%、52.4%)が最も高くなっています。一方、『鈴鹿北部』では「現状に満足している」が19.4%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。また、『亀山』では「外出目的地の近くを通ること」が36.0%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	現状に満足している	自宅の近くを通ること	外出目的地の近くを通ること	運賃が安いこと	遅れないこと	運転本数が増えること	その他
全体	518	12.4	48.1	28.4	43.1	7.5	53.3	4.1
鈴鹿西部	111	13.5	46.8	30.6	45.0	7.2	53.2	5.4
鈴鹿北部	108	19.4	48.1	21.3	41.7	7.4	44.4	5.6
鈴鹿中部	82	12.2	52.4	25.6	47.6	8.5	51.2	4.9
鈴鹿南部	103	10.7	43.7	27.2	47.6	9.7	52.4	2.9
亀山	114	6.1	50.0	36.0	35.1	5.3	64.0	1.8